

## 令和7年度 定例県議会 知事提案事項説明要旨 [抜粋]

### 令和8年2月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

昨年10月、11月に続き、12月にも国土交通省の水嶋事務次官と意見交換を行いました。県と国土交通省において対話を積み重ねていくことには意義があるものと考えておりますが、財政負担、ルート、在来線などの課題を多面的に考えていく必要がある難しい問題です。引き続き、様々なチャンネルを通して意見交換を行ってまいります。

### 令和7年11月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

10月と11月に、国土交通省の水嶋事務次官と様々な意見交換を行う中で、西九州ルートについても話しました。現在の整備新幹線の財源スキームには課題があることを私と水嶋次官の間で共有しました。今後も、国土交通省と意見交換を行っていきたいと考えております。

また、上下分離区間を走る特急「かささぎ」の運行本数等について、現在、JR九州は来春のダイヤ改正に向けて検討を進めております。JR九州は、平成28年の六者合意などを掲げ、「かささぎ」の減便を検討していますが、六者合意はあくまでもフリーゲージトレインの導入が前提であります。その前提がない今、合意時の14本が維持されるべきものと考えます。11月4日に、県と沿線市町が一緒になり、JR九州に対し、運行本数を維持するよう申入れを行いました。上下分離区間は、西九州新幹線の開業に伴い、特急の大幅な減便のほか、乗換負担が新たに発生するなど、利便性が大きく低下しています。沿線地域の皆さんをはじめ県にとって重要な問題であり、引き続き、JR九州に対して利便性の確保を求

めてまいります。

## 令和7年9月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

8月19日に、長崎県の大石知事、JR九州の古宮社長、私の三者で意見交換を行いました。合意していたにも関わらずフリーゲージトレインの導入を断念した国の責任を三者で確認し、引き続き地元三者で意見交換していくこととしております。もしフル規格で何かを行うのであればフリーゲージトレインではない新しい話としてしっかりと地元三者で合意した上で進めなければならないことを私は申し上げました。北陸新幹線は整備内容について地元での合意形成及び与党プロジェクトチームの決定を経ていたにも関わらず、現在、財政負担やルートなどについて沿線自治体や議会、住民からそれぞれの立場で様々な声があがっております。ルートの再検証の動きも出てきており、様々な問題が顕在化しています。このような状況をみましても、一つ一つ丁寧に地元で合意形成していくことが大切だと考えております。引き続き他地域の動向等も見据えながら、慎重に議論してまいります。

## 令和7年6月定例県議会

次に、九州新幹線西九州ルートについて申し上げます。

全国の整備新幹線の状況をみますと、北陸新幹線敦賀-新大阪間については、フル規格での早期整備で、地元での合意形成及び与党プロジェクトチームの決定を経ていたにも関わらず、現在、ルートを含めて沿線自治体などの関係者から、様々な意見が出ております。北海道新幹線新函館北斗-札幌間については、着工後にも関わらず、トンネル工事の想定外の遅れから、目標としていた令和12年度末の開業が先送りになりました。整備新幹線にはスキームも含めて様々な課

題があると考えており、他地域の動向等も見据えながら、慎重に議論してまいります。